

最近よく聞く言葉 ロタウイルス

「ロタウイルス感染症」は2月から5月にかけて多く発生します。

乳幼児がかかりやすい病気で、ロタウイルスによって急性胃腸炎を引き起こします。

ロタウイルスは感染力が非常に強く、ごくわずかなウイルスが体内に入るだけで感染してしまいます。大きさは直径約100ナノメートル（1万分の1ミリメートル）で、ノロウイルスの倍ぐらいです。感染者の下痢便1グラムの中には、1000億から1兆個のロタウイルスが含まれていると言われています。「ロタ」とはラテン語で車輪という意味。電子顕微鏡で見ると、車輪のような形をしています。

5歳までに大半の子どもが感染すると言われ、下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛といった症状が出ます。特に初めて感染したときは症状が強く、脱水症状で点滴や入院が必要になる場合もあります。大人は何度も感染を経験しているため、ほとんどの場合、症状が出ません。

ロタウイルスに効果のある抗ウイルス剤がないため、感染したら体力が消耗しないように水分補給や栄養補給をしながら回復を待ちます。また、感染を広げないように適切なオムツの処理、手洗いの徹底などが大切です。

総合南東北病院広報誌「南東北第336号」より転載